EPAC
Eco-friendly Plastic Packaging Association
イーパック

一般社団法人

環境にやさしいプラスチック容器包装協会

本協会は、生活のあらゆる場面で広範に利用されている
プラスチック容器包装の開発、製造、流通、販売、利用等に関わる
様々なステークホルダーが一堂に会し、
過去の慣例等にとらわれず、あらゆる可能性や新規性を排除せず、
真に将来の地球環境の負荷軽減
（海洋プラスチック対策、温暖化対策、食品ロス軽減対策等）
に資する実現可能な容器包装のあり方を
自由闊達に話し合う場を提供します。

令和３年２月１日

代表理事　櫻庭　英悦

（元農林水産省食料産業局長）

目　的

本協会は、持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みとして、地球環境に配慮したプラスチック容器包装の情報収集・分析提供を行うとともに、環境にやさしいプラスチック及びサプライチェーンシステム構築の研究・調査・開発・運営等を行うことを目的とします。

事業概要

本協会は、主に次の事業を行います。
・国内外のプラスチックに関する調査研究
・容器包装用プラスチック関連情報の収集、分析、発信等
・講演会、セミナー、研究会等の開催
・企業、実需者、消費者への情報提供と相談・斡旋等支援業務
・プラスチック関連の新技術の開発研究及びコンサルティング事業

啓蒙活動

本協会は、新聞・TV 等各メディアでの講演の実施のほか、全国の小学校において環境への啓蒙活動を積極的に行います。

一般社団法人

環境にやさしいプラスチック容器包装協会

設立趣意書

1．「プラスチックの父」と呼ばれるアメリカの化学者レオ・ベークライトが 1907 年に完全な人工合成樹脂「ベークライト」の合成に成功してから 100 年以上が経過しました。その間、様々な種類のプラスチックが新たに開発されるとともに、それらを経済的に生産する能力の向上も図られてきました。加えて、新たな社会的課題への対応や機能の高度化が絶え間なく行われてきた結果、あらゆる場でプラスチックが幅広く活用され、我々の日常生活の利便性は著しく向上しました。

2．プラスチックは、その利便性、機能性、経済性等ゆえに、生活様式の変化や新興国の経済発展等に伴い、世界的な生産量は増加を続けてきましたが、その一方で、適正な処理・再利用システムの欠落又は構築の遅れにより、プラスチックごみ問題が時を追うごとに顕在化し、地球規模での環境汚染が懸念されるに至っています。

3．こうした中で、2015 年 9 月の国連サミットで、17 のゴール・169 のターゲットから構成される持続可能な開発目標（SDGs）を示した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。このアジェンダは、「人間、地球及び繁栄のための行動計画」であり、「持続可能な開発を、経済、社会及び環境というその 3 つの側面において、バランスがとれ統合された形で達成することにコミットしている」とされました。

4．また、我が国では、令和元年（2019 年）5 月に「プラスチック資源循環戦略」が発表されました。同戦略において、プラスチックは「我々の生活に利便性と恩恵をもたらした素材」であり、「その機能の高度化を通じて社会的課題の解決に貢献してきた」とした上で、SDGs でも求められている地球規模での資源・廃棄物制約や海洋プラスチックごみ問題への世界全体の取組として、プラスチック資源循環体制の早期構築と、海洋プラスチックごみによる汚染防止を実効的に進めることが必要とされました。さらに、同年 6 月に開催された G20 大阪サミットの首脳宣言では、特に海洋プラスチック問題に関し、「社会にとってのプラスチックの重要な役割を認識しつつ、改善された廃棄物管理及び革新的な解決策」により、「2050 年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す」とされました。

5．利便性、機能性、経済性、そして昨今の新型コロナウイルス（COVID-19）感染症でその役割が再認識された衛生面等において極めて優れた素材であるプラスチックは、容器包装としても広範に利用されていることから、その開発、製造、流通、販売、利用等に関わる様々なステークホルダーが、連携と協働を通じて、環境面はもとより、経済面及び社会面における課題への対応と SDGs 達成への貢献に積極的に参画することが極めて重要です。

6．以上に鑑み、過去の慣例等にとらわれることなく、また、あらゆる可能性や新規性を排除せず、真に将来の地球環境の負荷軽減に資する実現可能な容器包装のあり方を自由闊達に話し合う場を提供するとともに、その成果を国内外に広く発信することを目的として、一般社団法人環境にやさしいプラスチック容器包装協会をここに設立します。

令和３年２月１日

設　立　者　一　同

設　立

令和３年２月１日

役　員

（令和３年２月１日現在）

代表理事	櫻庭　英悦	元農林水産省食料産業局長
専務理事	佐々木直樹	モアディバイス㈱代表取締役
事務局長	宮島　栄一	元在韓国日本国大使館参事官
理　事	栗原　隆幸	㈱ BMCS 代表取締役
理　事	若村　光司	（一社）酒田青年会議所第 53 代理事長
監　事	神木　亮輔	神木司法書士事務所代表司法書士

EPAC
Eco-friendly Plastic Packaging Association

EPAC 事務局

住　　所　〒131-0033　東京都墨田区向島 3-33-10-2F
ＴＥＬ　03-6456-1131
ＦＡＸ　03-6808-3124
e-Mail　info@epac.or.jp
ホームページ　https://epac.or.jp